

■使用評価マニュアル: 北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト: CASBEE北九州\_2014(v2.0)

## 1 建物概要

建物名称	北九州空港国際貨物上屋増設工	BEE	0.9	BEEランク	B-	★★
------	----------------	-----	-----	--------	----	----

## 2 重点項目への取組み度

重点項目	得点 <sup>※</sup> /満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	3.3 / 5		ふつう
2 地球温暖化対策の推進	3.6 / 5		ふつう
3 豊かな自然環境の確保	1.6 / 5		がんばろう:
4 高齢社会への対応	1.0 / 5		がんばろう:

※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)

評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満
-------	----------------	-----------------	-------------------

## 3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル:	CASBEE-建築(新築) 2016年版	使用CASBEE評価ソフト:	CASBEE-BD_NC_2016(v.4.01)
<b>1 循環型社会への貢献</b>		<b>スコア平均 3.3</b>	
リサイクルに関する配慮 LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア <b>3.2</b>	長寿命化に関する配慮 Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数 Q2/ 3 対応性・更新性	スコア <b>3.4</b> スコア <b>3.3</b>
LGS工法により躯体と仕上げ材の分別を容易にし、再利用可能なOAフロアを採用した。		耐用年数が長い配管材を採用。階高3.8m以上、壁長さ比0.14とし空間にゆとりのある計画とした。	
<b>2 地球温暖化対策の推進</b>		<b>スコア平均 3.7</b>	
省エネ・省資源に関する配慮 LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア <b>3.3</b>	節水に関する配慮 LR2/ 1.1 節水	スコア <b>4</b>
LCCO2排出率90%		過半以上の器具に節水仕様のあるものを採用。	
<b>3 豊かな自然環境の確保</b>		<b>スコア平均 1.7</b>	
生態系保全に関する配慮 Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア <b>1</b>	緑化に関する配慮 Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上 LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア <b>2</b> スコア <b>2</b>
特になし。		燃焼機器を使用せず、温熱環境向上に配慮した計画。卓越風に対する見付面積比率を40%以下に抑えた。	
<b>4 高齢社会への対応</b>		<b>スコア平均 1.0</b>	
バリアフリーに関する配慮 Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア <b>1</b>	主な指標	
バリアフリーに関する指導なし。		建物の外皮性能 (BPI評価) 非住宅: BPI値、住宅: 省エネ等級	
		建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価) 非住宅: BEIm値、住宅: -	0.81
		外構緑化指数	0 %
		建物緑化指数	0 %

: 入力欄

: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

# CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v4.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	北九州空港国際貨物上屋増設工事	階数	地上2F
建設地	福岡県北九州市小倉南区空港北町	構造	S造
用途地域	用途地域指定なし、市街化調整区域	平均居住人員	15人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,912時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年6月 予定	評価の実施日	2022年1月11日
敷地面積	4,571㎡	作成者	寺川幸子
建築面積	2,206㎡	確認日	2022年1月11日
延床面積	2,381㎡	確認者	定森淳一



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.6** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ☆☆ 100%超: ☆

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 2.3

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.7

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 3.0

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.9

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
高効率設備を採用し省エネルギー性能に配慮した。	特になし。	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
評価対象外。	ゆとりのある階高と空間の自由さを確保し、設備やプランニングの自由度が極めて高い。	特になし。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
高効率設備の導入により、環境負荷低減に努めた。	建物の節水性に配慮している。発泡剤を使用した断熱材を採用せず、汚染物質含有材料の使用回避を行った。	消費エネルギー量削減により運用時のLCCO <sub>2</sub> 排出量低減に配慮している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
**北九州空港国際貨物上屋増設工事**

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v4.01)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄			評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>2.3</b>
<b>Q1 室内環境</b>									
<b>1 音環境</b>					-	-	-	-	-
1.1 室内騒音レベル					-	-	3.0	-	-
1.2 遮音					-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能					-	-	3.0	-	-
2 界壁遮音性能					-	-	3.0	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-	-	3.0	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-	-	3.0	-	-
1.3 吸音					-	-	3.0	-	-
<b>2 温熱環境</b>					-	-	-	-	-
2.1 室温制御					-	-	-	-	-
1 室温					-	-	3.0	-	-
2 外皮性能					-	-	3.0	-	-
3 ゾーン別制御性					-	-	-	-	-
2.2 湿度制御					-	-	3.0	-	-
2.3 空調方式					-	-	3.0	-	-
<b>3 光・視環境</b>					-	-	-	-	-
3.1 昼光利用					-	-	-	-	-
1 昼光率					-	-	3.0	-	-
2 方位別開口					-	-	3.0	-	-
3 昼光利用設備					-	-	3.0	-	-
3.2 グレア対策					-	-	-	-	-
1 昼光制御					-	-	3.0	-	-
3.3 照度					-	-	3.0	-	-
3.4 照明制御					-	-	3.0	-	-
<b>4 空気質環境</b>					-	-	-	-	-
4.1 発生源対策					-	-	-	-	-
1 化学汚染物質					-	-	3.0	-	-
4.2 換気					-	-	-	-	-
1 換気量					-	-	3.0	-	-
2 自然換気性能					-	-	3.0	-	-
3 取り入れ外気への配慮					-	-	3.0	-	-
4.3 運用管理					-	-	-	-	-
1 CO <sub>2</sub> の監視					-	-	-	-	-
2 喫煙の制御					-	-	-	-	-
<b>Q2 サービス性能</b>					-	0.43	-	-	<b>3.1</b>
<b>1 機能性</b>					-	-	-	-	-
1.1 機能性・使いやすさ					-	-	-	-	-
1 広さ・収納性					-	-	3.0	-	-
2 高度情報通信設備対応					-	-	3.0	-	-
3 バリアフリー計画					-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性					-	-	-	-	-
1 広さ感・景観					-	-	3.0	-	-
2 リフレッシュスペース					-	-	-	-	-
3 内装計画					-	-	1.0	-	-
1.3 維持管理					-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計					-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保					-	-	-	-	-
<b>2 耐用性・信頼性</b>					<b>3.0</b>	0.50	-	-	<b>3.0</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振					<b>3.0</b>	0.50	-	-	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)					3.0	0.80	-	-	-
2 免震・制震・制振性能					3.0	0.20	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数					<b>3.4</b>	0.30	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数					3.0	0.20	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔					3.0	0.20	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					3.0	0.10	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					3.0	0.10	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水:H1VP、給湯:SUS、汚水排水:VP			5.0	0.20	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔					3.0	0.20	-	-	-
2.4 信頼性					<b>2.8</b>	0.20	-	-	-
1 空調・換気設備					3.0	0.20	-	-	-
2 給排水・衛生設備					2.0	0.20	-	-	-
3 電気設備					3.0	0.20	-	-	-
4 機械・配管支持方法					3.0	0.20	-	-	-
5 通信・情報設備					3.0	0.20	-	-	-

<b>3</b>	<b>対応性・更新性</b>		<b>3.3</b>	0.50	-	-	<b>3.3</b>
	<b>3.1 空間のゆとり</b>		<b>4.0</b>	0.30	-	-	
	1 階高のゆとり	3.7m以上、3.9m未満	4.0	0.60	3.0	-	
	2 空間の形状・自由さ	0.1 ≤ [壁長さ比率] < 0.3	4.0	0.40	3.0	-	
	<b>3.2 荷重のゆとり</b>	-	<b>3.0</b>	0.30	3.0	-	
	<b>3.3 設備の更新性</b>		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
	1 空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-	
<b>Q3</b>	<b>室外環境(敷地内)</b>		-	<b>0.57</b>	-	-	<b>1.7</b>
<b>1</b>	<b>生物環境の保全と創出</b>		<b>1.0</b>	0.30	-	-	<b>1.0</b>
<b>2</b>	<b>まちなみ・景観への配慮</b>		<b>2.0</b>	0.40	-	-	<b>2.0</b>
<b>3</b>	<b>地域性・アメニティへの配慮</b>		<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-	2.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	-	2.0	0.50	-	-	
<b>LR</b>	<b>建築物の環境負荷低減性</b>		-	-	-	-	<b>3.0</b>
<b>LR1</b>	<b>エネルギー</b>		-	<b>0.40</b>	-	-	<b>2.9</b>
<b>1</b>	<b>建物外皮の熱負荷抑制</b>		-	-	-	-	-
<b>2</b>	<b>自然エネルギー利用</b>	ハイライト設置	<b>4.0</b>	0.13	-	-	<b>4.0</b>
<b>3</b>	<b>設備システムの高効率化</b>		<b>2.9</b>	0.63	-	-	<b>2.9</b>
<b>4</b>	<b>効率的運用</b>		<b>2.5</b>	0.25	-	-	<b>2.5</b>
	集合住宅以外の評価		<b>2.5</b>	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング	-	3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	2.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	
	4.1 モニタリング	-	3.0	-	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	3.0	-	-	-	
<b>LR2</b>	<b>資源・マテリアル</b>		-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.2</b>
<b>1</b>	<b>水資源保護</b>		<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
	1.1 節水	省水型便器、自動水栓、節水コマの採用	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		<b>3.0</b>	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30	-	-	
<b>2</b>	<b>非再生性資源の使用量削減</b>		<b>3.2</b>	0.60	-	-	<b>3.2</b>
	2.1 材料使用量の削減	-	2.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	2.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	解体時の分別が容易な工法の採用およびOA707の導入	5.0	0.20	-	-	
<b>3</b>	<b>汚染物質含有材料の使用回避</b>		<b>3.3</b>	0.20	-	-	<b>3.3</b>
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	<b>3.0</b>	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		<b>3.5</b>	0.70	-	-	
	1 消火剤	-	-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP ≤ 3の断熱材を採用	4.0	0.50	-	-	
	3 冷媒	-	3.0	0.50	-	-	
<b>LR3</b>	<b>敷地外環境</b>		-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.0</b>
<b>1</b>	<b>地球温暖化への配慮</b>	LCCO2排出率90%	<b>3.3</b>	0.33	-	-	<b>3.3</b>
<b>2</b>	<b>地域環境への配慮</b>		<b>2.9</b>	0.33	-	-	<b>2.9</b>
	2.1 大気汚染防止	燃焼機器の使用がなく大気汚染物質を全く発生しない	<b>5.0</b>	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	-	<b>2.0</b>	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		<b>2.7</b>	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制	-	2.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
<b>3</b>	<b>周辺環境への配慮</b>		<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
	1 騒音	-	3.0	1.00	-	-	
	2 振動	-	-	-	-	-	
	3 悪臭	-	-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
	1 風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制	-	3.0	-	-	-	
	3 日照阻害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制		<b>3.0</b>	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-	3.0	0.70	-	-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	